

### オリンピックの開催 (アテネでの経験から その1)

本年7月24日に開会予定であった東京オリンピックは、新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期され2021年7月の開催が決定し、パラリンピックも同じく21年9月の開催となりました。この時のために競技人生を賭けてきたアスリートや競技関係者、観戦チケットを購入予約していた人々にとっては、1年の延期は肩透かしを食らったようで残念ですが、いたしかたありません。アスリートの皆さんにはこれから1年をかけてさらに高みを目指していただきたいと思います。



パルテノン神殿

オリンピック・パラリンピック(オリ・パラ)は4年に1度の開催で、世界中の人々が集うビッグ・イベントですので、通常、オリ・パラの開催都市では開催年の初頭から徐々に盛り上がりを見せ、開会式当日に最高潮に達します。筆者は、2004年にアテネでオリ・パラが開催された時期に現地に駐在、オリ・パラ関係者や観戦に訪れる邦人観光客を対象にした危機管理を担当した経験がありますが、あらためて当時のアテネの様子を振り返ると、オリ・パラが開催都市の活性化に影響を及ぼしたのと同時に、負の側面もあったことが理解できます。

ということで、今回は東京オリンピック・パラリンピックを1年後に控え、オリ・パラを迎える都市の雰囲気、国民のオリ・パラへの向き合い方、閉幕後のオリ・パラのレガシーについてアテネでの経験を4回シリーズで考察してみます。

### オリンピック聖地に還る



第1回近代オリンピック競技会場 (パナシナイコスタジアム)

そもそも、アテネ市は近代オリンピック発祥の地として開催された1896年の第1回アテネオリンピックから100年目となる節目として、1996年のオリンピックのアテネ開催を切望、開催候補都市として立候補し、最後までアトランタと争ったものの、最終投票で願い叶わず敗退、あらためて2004年開催に立候補して悲願の当選を果たしたという経緯があります。108年ぶりにオリンピック発祥の地に戻ってくることになり、メデ

ィアも大々的に報じました。

## オリンピック前のアテネ

筆者がアテネに赴任したのは2002年4月、オリ・パラを2年後に控えた時期でしたが、着任時のアテネは、2年後にオリンピックがあるのかと思えるほどに驚くほど静かで盛り上がりもなく、正直言って本当にオリンピックが開催されるのか疑われるほどでした（この辺り、今から2年前には既にメディアでも大きく取り上げられていた日本の状況と比較すると、全く違っていました）。また、国際的な大イベントの開催を控えたEUの一国の首都で国際観光都市という割には、街中で英語がほとんど通じないことに驚かされたもので、コミュニケーションには苦労しました（もともと、これは筆者がギリシャ語を習得すればよかつただけのことですが…）。

それはさておき、当時のギリシャを取り巻く状況を少し説明しますと、新しい欧州の通貨であるユーロが流通貨幣として導入されたのが2002年1月、それに伴いギリシャもそれまでの独自の通貨ドラクマからユーロに移行して間がなく、商店やスーパーなどでは商品の価格がユーロとドラクマで併記されるなど、市民も新通貨にまだなじんでいない時期で、混乱もあつたように記憶しています。また、失業率も10%を超えており、国民はオリンピックどころではなかったのかもしれない。

## 準備状況

オリンピックの準備状況は、メインスタジアムは既存施設の改修でしたが、ほとんどの競技会場が新設で、その多くの施設で工事進捗に遅れが目立ち、メインスタジアムの改修は4割にも満たない状況でした。その上、工事現場のワーカーの多くが隣国アルバニアからの出稼ぎ労働者（当時100万人ともいわれるアルバニア人が出稼ぎに来ていた由）といわれており、当のギリシャ人（の多く）はカフェでのんびりおしゃべりに興じ、国民はオリンピックに関心があるのかどうかも疑わしいといった構図に見えました。施設工事の遅れから、オリンピック開催が危ぶまれると外国メディアが盛んに報道していたのもこの時期です。

その一方、オリンピックの開催に歩調を合わせるように新国際空港が2001年に開港され、空港と市内を繋ぐ高速道路の開通、同じく空港から市内までメトロの延伸、地下鉄の整備、トラムの開通といった周辺インフラの整備は進められていました。その点では、オリンピック開催がアテネ市民の社会生活、特に交通の利便性を高めるのに果たした役割はそれなりに大きかったと思います。

今回は、開催まで1年を切つてからの状況についてお話しします。

(公財) 栃木県国際交流協会 参与 石塚勇人 (略歴)

1977年外務省入省。外務本省では主に経済協力局、国際協力局で途上国の開発協力を担当。海外勤務歴は、在イスラエル大使館に始まり、在アンカレッジ総領事館、在モントリオール総領事館、在連合王国(英国)大使館、在南アフリカ大使館、在ギリシャ大使館、在ドイツ大使館、在インド大使館、在ニューヨーク総領事館の9公館で計29年間。ギリシャ、ドイツ、インドの各大使館で領事班長を歴任。在ニューヨーク総領事館領事部長を最後に2019年3月退官。同年5月より現職。